

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 概ね達成できた 【C】 あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>学習指導</p> <p>学校経営支援センター特別指定校・理数研究校における思考力・判断力・表現力を養う授業への改善</p> <p>【A】</p>	<p>① 定期考査や模擬試験の結果分析を踏まえた教科会における課題と学力向上策の明確化</p> <p>② 主体的で対話的な深い学びを実現するための授業研究の実施</p> <p>③ 教員相互の授業参観の実施</p> <p>④ 生徒の科学的思考力を高め、疑問点を自ら解決する態度の涵養</p>	<p>① 教科主任・教科担任の分析会出席や考査後の教科成績会での結果分析を副校長主催の教科主任会で確認し、校長や副校長の助言を踏まえて授業改善に資する形が初めて機能するようになった。</p> <p>② アクティブラーニングの先進的な取組を行っている私立高2名を講師とした校内研修会に全員参加し、理解を深めた。また、先進的な授業の取組や研修に資する講演を視聴できるサイトの視聴率が上がった。</p> <p>③ 指導教諭による模範授業には、他教科の教員も参観した。第2学期を相互授業参観期間と定め、一人が2回程度参観した。</p> <p>④ 数学や理科の授業や実験で科学的思考力を高める授業展開を教員が意識して行った。また、科学部の部活動指導により日本学生科学賞都大会で優秀賞を受賞した。</p>
<p>進路指導</p> <p>進学指導研究校におけるキャリア教育の充実による一段高い進路意識の保持</p> <p>【A】</p>	<p>① 生徒が主体的に進路探究活動を行うための進路行事の内容充実</p> <p>② 各種検定の実施や朝学習の充実など、スモールステップで進路意識を高める取組の充実</p> <p>③ 海外学校間交流推進校として姉妹校交流を進め、主体的に他者理解を深める取組の充実</p>	<p>① 自前の探究テキストを活用した第1、2学年の総合的な探究の時間を計画的に行い、グループごとのテーマ研究を充実させた。また、豊島セミナーに独自の音楽活動を行う有識者を呼び、みらい会議・ゆめ会議を行って生徒の進路式を揺さぶった。</p> <p>② 英語検定の準2級以上合格者は大幅に増え、漢字検定・数学検定・文章検定も第1、2学年全員受検できた。朝学習はコロナの関係で第1、2学年自主参加となったが、学年担任がよく取り組んだ。</p> <p>③ コロナ禍でテレビ会議や文通も含め前年度姉妹校提携した北京の高校とはほとんど何もできなかった。</p>
<p>生活指導</p>	<p>① あらゆる学校行事で実行委員公募を行うなど特別活動への生徒の主体的</p>	<p>① 前年度から生徒の委員を公募し、生徒が主体的に行事を企画運営しようとしたが、コ</p>

<p>全教員で統一した生活指導方針による校則遵守の組織的な指導と生徒の主体性の育成</p> <p style="text-align: center;">【B】</p>	<p>な取組の促進</p> <p>② 部活動顧問による生徒指導の強化、学習活動と両立できる活動計画の徹底</p> <p>③ 教育相談の手法を活用した学年と生活指導の連携による系統的な生徒指導の取組</p>	<p>コロナ禍で歩こう会は中止、体育祭・文化祭も体育実演会、文化発表会として学年ごとにZ o o mや放送を活用したりするなど、形態を変えて行うしかできなかつたが、生徒は工夫して実行する意欲や態度を示した。</p> <p>② コロナ禍で部活動指導が思うに任せない状況ではあつたが、顧問はよく生徒を指導し、特に吹奏楽部や科学部、演劇部、バスケットボール部やバドミントン部などは好成績を上げた。一方、顧問会議による横の連携がうまく取れなかつた。また、学習活動との両立が図れず、部活動を退部する生徒が見られた。</p> <p>③ 特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーと生活指導部、学年担任を中心に個別に支援を必要とする生徒に連携して注意を払い面倒を見ることで、中退や転学を防ぐ上で大きな役割を果たす体制が固められつつある。</p>
<p>心身の健康づくり</p> <p>生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握する、個に応じた健康指導の充実</p> <p style="text-align: center;">【B】</p>	<p>① 学校への帰属感を高める生徒の心身の健康状態に即した教育相談の推進</p> <p>② オリンピック・パラリンピック教育を進めるための体力向上に向けた様々な取組</p>	<p>① 学校行事や特別活動、二者面談や学年集会などをうまく組み合わせ、スクールカウンセラーの相談活動のバックアップも得て、コロナ禍でも生徒の学校への帰属意識を保持させることができた。また、年5回の教育相談委員会で、生徒情報を共有した。</p> <p>② 体力テストの成績がなかなか向上していかないものの、体育実演会などに一生懸命取り組む生徒が増えるなど、学習活動だけでなく体力向上への生徒の姿勢が高揚していると見られる場面が確実に増えている。</p>
<p>募集・広報活動</p> <p>本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加</p> <p style="text-align: center;">【A】</p>	<p>① ホームページの内容充実、学校案内のレイアウトや内容の刷新</p>	<p>① コロナ対応のため、ホームページに音声付きの学校紹介ページを増やし、学校説明会全体会を開かなくても個別相談会で対応できる体制をつくつた。夏季休業日中の学校見学会と個別相談会で1700名の来校者を得ることができた。</p>

	② 入学者のいない学校や地区の上級学校講話や校外合同説明会等への参加	② 校長による中学校・私塾での学校説明、総務部による個別相談等、コロナ禍でも効果的な広報活動を行うことができた。
学校経営・組織体制 生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校経営の組織的な展開 【A】	① 企画調整会議を中心とした分掌部会や学年会、教科会の連携の一層強化 ② 会議運営の効率化をはじめとした計画的な業務の進行管理 ③ ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す、業務が偏在しない、同僚性の高い職場づくり	① 企画調整会議を中心とし、分掌・学年と企画調整会議で意見のやり取りを行った。教科主任会での模試分析と授業改善の指示に基づき教科会を重ねるとともに、新学習指導要領に基づくカリキュラム編成を完結させた。 ② 企画調整会議の円滑な運営を図りながら、生徒の進路実績向上のための取組から教員の働き方改革まで、課題解決に向けた意見交換を活発に行うことができた。 ③ 分掌主任や部活動の主顧問に一部業務が偏った嫌いはあるものの、勤務時間外の残業者は減り、学年担任の同僚性は高かった。

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 家庭学習時間を第1学年は1.5時間、第2学年は2.5時間	○第1学年1.05時間、第2学年1.54時間
○ 国公立大学+難関私立大学+GMARCH合格者延べ人数100名	○56人
○ 大学入学共通テストにおける教科・科目ごとの平均点が全国平均の95%以上	○達成13科目、未達成4科目
○ 英語検定準2級以上取得30名、漢字検定準2級以上取得20名、数学検定2級以上10名	○英検70名、漢検29名、数検5名
○ 学校説明会参加者延べ人数7000名	○1701名
○ 推薦入試倍率4倍	○3.72倍
○ 一般入試倍率1.8倍	○1.73倍
○ 1日当たりのクラス平均遅刻者数0.1人	○0.3人
○ 部活動加入率100%（文化部兼部延べ人数で計算すると110%）	○88%

3 次年度に向けた課題と対応策

本校の目標である一段高い進路希望の実現と生徒の主体性の向上に向けて、学校改革を進めている。自己評価を【B】とした項目を中心に対応策を以下に示す。

学習指導では、今年度も相互授業参観や指名制による授業研究等により、教員の授業力向上と進学校

に見合った授業改善を目指したが十分とは言えない。次年度も進学指導研究校に応募しているので、指名制による授業研究に5教科が参加し、教科に還元し、授業改善に生かしていく。また、先進校視察や動画視聴も含めた研修の推進により、学校全体で進学校に見合った授業に改善していく。さらに、学年担任の教員自身が行う模試分析から本校の生徒の苦手分野を早期に発見し、教科として補習や講習で手当てをしていく。進路部から教科主任、教科主任から教科のラインを明確にして講習等を行っていく。

生徒の心身の健康づくりでは、教育相談委員会を中核として、生徒の心身の状況や発達障害についてスクールカウンセラーと連携しながら意見交換を行った。生徒対応等教育相談の方法が分かれば、実践意欲のある教員集団であるので、今年度はコロナの関係でかなわなかったが、来年度こそは専門家を講師とした研修を企画する。また、進路関係はもちろん、心身の健康づくりでも家庭と連携する必要から、三者面談や保護者との二者面談を行い、校内で情報有していく。

また、【A】とした進路指導の項目でも、本校の進学実績を上げるための課題は残っている。今年度初めて行ったケース会議の更なる充実など資料の作成方法等から改善していく。